

第47回韓青全国冬期講習会を開催！！！！

3月4日～6日、長野県志賀高原で、第47回韓青全国冬期講習会を開催しました。各地から多くの同胞青年が集う中、開会式では東京本部のフレッシュな3人による元気なノレ指導により、講習会のテンションは一気に急上昇。その後の班発表でも班長、副班長がお互いのイラストを書いてくるという、ユニークな紹介で大いに盛り上がりました。

そして恒例のゲレンデ・室内レクは、三重県本部が担当しました。ゲレンデレクでは班全員で標的のザルに雪玉を投げて倒すゲームを楽しみました。勝負にこだわる韓青メンバーは、的にめがけて全力投球！あまりの威力にザルが壊れるハプニングがありましたが、レク委員が見事に仕切ってくれました。また室内レクもだるまさんゲームやクイズ大会で抱腹絶倒、例年以上に盛り上がりました。

また講演企画も盛りだくさんでした。初日の全体講演では、韓統連中央・黄英治組織局長が「“記憶の火葬”と民族的に生きること」をテーマに講演されました。講演では差別とは何か、民族とは何か、私たちとはどういう存在か、といった普段日常の中で私たちが深く意識できなかったテーマに関して、より深く、丁寧にお話していただきました。

また、2日目のグループ別企画では、Aグループで朴明哲中央副委員長が「ともに民族的に生きよう」、Bグループでは文世賢中央委員長が「Road to 2012」というテーマで講演を行いました。

この2つの講演を通して班別討論では、「民族ってなに？」「差別はなぜおきるんだろうか？」「私たちと祖国は、どのようなつながりがあるのか」「歴史にどうやって向き合っていくのか」など、さまざまな議題を忌憚なく討論していくことができました。



2日目の夜にはいよいよメインイベント、民族文化マダン！オープニングを飾ったのは、今回レクでも大活躍の三重県本部！とても水準の高い劇を披露し、会場から大喝采を浴びました。文化発表では、息がぴったりの神奈川のソルチャンゴ、迫力満点で、ちょっと笑いの要素も含んだ京都のテコンドー、ノレとサムルの絶妙な融合、大阪の雲雨風雷(ウヌブンレ)、祖国の自主統一を力強くアピールした東京の構成劇、アカペラで熱唱した兵庫のノレなど、各地方がこの日までに一生懸命努力した成果をいかんなく発揮し、文化マダンを彩りました。

各班の寸劇も秀逸。「民族に生きる」ことを基本テーマにしながら、抱腹絶倒の寸劇が連発でした。フィナーレは、愛知県本部の力強いプンムル。会場を巻き込んだ群舞で参加者全員が民族文化の楽しさ、すばらしさを体感した瞬間でした。

そしてキャンプもいよいよ大詰め。閉会式です。今回のキャンプの質の高さをそのまま反映したような、力強い決意がたくさんこめられた閉会式でした。より積極的に民族的な生き方を追求したい、もっと主体的に活動をしていくなど、力強い決意を共有し、各地方に帰ってからの「更なる一歩」を約束しました。



「第47回冬期講習会」に 参加して・・・

大阪府本部 カン・チュンジャ

「民族的に生きることの本当の意味を探すのが、この韓青なんや！」
こんなセリフを、何十人もの在日同胞の前で、大声で話すなんて、5年前の私が知ったら、とても驚くでしょう。

今年もあっという間に、3日間の韓青スノーフェスティバルが終わってしまいました。

キャンプ自体は、もう7回目の常連の私でも、毎回新鮮な感動を味わうことができ、個性的で、一生忘れることのできない在日同胞の仲間と出逢わせてくれるのが、この韓青のキャンプです。

韓青に通い始めて、もう4年半。始めは、民族的に生きたい！！なんて、そんな大それたこと考えもせず、ただ単にウリマルを勉強したい！それだけの思いで、たまたま見つけたこの韓青に、通うこととなりました。（今思えば、その出逢いは私にとって偶然ではなく、必然であったのだと感じずにはいられません。）ところが私は、そこで次々出逢う個性あふれる韓青大阪のメンバーに、そしてこれまで出逢った全国の韓青の仲間から、様々な影響を受け、助けられ、大きく人生をかえられることになるのです。

そして今、民族的に解放され、一人の在日朝鮮人として胸を張って生きることができるようになった私が、ここにいます。

韓青という場所に出逢い、何より感謝していることは、在日である自分がとても嫌いで、自分のルーツを恥ずかしいと思って生きてきた私の心を解放し、自分のルーツを大切に生きていくことがどれだけ素晴らしいことかを教えてくれたことです。自分自身を否定して生きていくことほど、辛く、淋しく、また虚しいことはありません。

キャンプで様々な考え方を持つ在日同胞と出逢うことで、自分は一人ではない、という安心感が持てたり、思いを共有したり、自分では思いもつかない他人の思いに触れることで、考え方の視野がぐんと広がります。そして、何故私達に在日朝鮮人という存在が生まれ、どうしてルーツを隠して生きていかざるを得ない立場にいるのか、その背景にある歴史、つまりは「在日史」を学ぶことで、私は自分自身を肯定できるようになりました。それができたのが、韓青という場所であり、そこに集う仲間でした。

7回目のキャンプでは、改めて、韓青という場所が、今の自分にとってどれだけ大きな存在であり、またそれは同時に全ての在日同胞にとっても、「民族的に生きる」ために必要な場所なのではないかということを実感しました。

以前の私のように、今もまだ在日である自分自身を肯定できずに生きている同胞のために、そしていつか韓青の扉を叩くであろう同胞青年のために、私にできることは何かと考えた時、全国のキャンプはもちろん、もっと身近な場所に、民族的で解放的な空間を、信頼できる仲間とともに創っていくことであると思い、新たな一步を踏み出す決意をしました。

私にその勇気を与えてくれた韓青大阪の愛すべきメンバー、そしていつも見守ってくれている韓青全国のオンニ、オッパに、心から感謝しています。その素晴らしい仲間とともに、私は「民族的に生きるの意味」を、この「韓青」で探し続けていきたいと思っています。



「第47回冬期講習会」 に参加して

三重県本部 ヤン・コンミョン

初めての韓青 SF に参加して

今回の SF 参加の目的はスノボーを楽しみ、色々な地域の同胞と友達になることでした。SF が終わって振り返ってみると、たくさん友達は出来ました。また、楽しむという部分でスノボー以上に班別討論やレクリエーションなどで交流を深めるほうが楽しめました。初日に行われた、韓統連中央本部の黄英治組織局長の講演の中で、ある芸能人が「在日と隠す必要はないが言う必要もない」と言ったというお話がありました。自分でも「そうだなあ」と思いながらも、班別討論で色々な意見を聞いているうちに、自分の中で色々考えるきっかけになりました。

そして2日目の講演で、「あなたは在日韓国人ですか？」の問いに「はい」と即答出来るのに、その質問が「あなたは在日朝鮮人ですか？」に変わると即答出来なかった自分がいて、また歴史に関して全然分からなかった自分もいて、そんなことを本当にもどかしく感じ、また朝鮮半島分断や現代社会で抱えている民族の問題について、今の自分には何も言う資格がないとさえ感じました。そう感じたからこそ歴史について学びたい、自分の民族のルーツを知りたい、と強く思いました。

文化マダンでおこなった寸劇の中のセリフで「民族的に生きる本当の意味をみんなで探そう」というのがありました。民族的に生きる意味について人それぞれ考えがあると思います。似ている考えもあれば全く違った考えの人もいます。そしてそれが正しいのかそうでないのかは誰にもわからないことだと思います。けど、それをお互いぶつけ合い混じり合うことで本当の意味に繋がっていくのではないのでしょうか。なので、今回班別で討論をして様々な意見や考え方を知り、本当の意味へ一歩前進出来たと思います。

今回参加してみて、いつかキャンプで班長をやってみんなを引っ張っていけるような存在になりたいと思いました。まだ、韓青に来て1年で、今回キャンプには初参加なので実力的にも経験的にも出来そうにないですが、これからも韓青三重での色々な活動に参加して経験を積んでいき、そして何年後かに班員に今の自分みたいに参加して本当に良かったと思ってもらえるような、そんなキャンプの班長になりたいです。

東日本大震災によって亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたみなさま、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

私たちが在日韓国青年同盟も、この想像を遥かに凌駕する被害とその後の事態を目の当たりにして、盟員一丸となって、微力であっても最大限の支援をおこないたいと思っています。

募金活動にご支援ご協力をお願いします。

送り先：郵便振替 00190-2-297241（民族時報社）まで。

「義援金」と明記してください。



「第47回冬期講習会」 に参加して

東京本部 カン・ファデ

私は今回、キャンプで初めて文化発表実行委員や班長団（副班長）として参加しました。文化発表の実行委も副班長も初めは断ったのですが、東京本部の皆さんの後押しもあり引き受けることになりました。

文化発表で東京は、構成劇で現代版『チノギ』を発表しました。

『チノギ』とは？から始まり、初めは人も集まらず大変でした。練習をしていく中で、徐々に人も集まりだし、この『チノギ』を通じて、今の情勢を伝えていきたいという気持ちになりました。本番では、東京本部が一丸となって発表できたので、大変でしたが、今は良い思い出しか残っていません。また他の地域の文化発表も笑いあり、感動ありでとても素晴らしかったです。

副班長としても参加し、不安と緊張でいっぱいでした。講習会のテーマでもある「民族的に生きる」ということも十分に理解できていないままに始まりました。

初めての副班長、準備もままならず、年齢の違いもあり、会話が続けるのか？人を引っ張っていくことはできるのか？「民族的に生きる」ということを伝えることはできるのか？という不安でいっぱいでしたが、班員達は快く私達を受け入れてくれ、全力で有意義な3日間を過ごすことができました。

また全体講演では、黄英治韓統連中央本部組織局長が『〈記憶の火葬〉と民族的に生きること』を講演して下さいました。自分の知らなかったこと等、幅広く知ることができ、とても勉強になりました。朴明哲韓青中央本部副委員長の『ともに民族的に生きよう』のグループ講演では、自分自身に置き換えて考えることができる時間になりました。これからの自分に生かして行きたいと感じました。

日常生活・社会では、あり得ない出会い＝参加した全ての人が自分と同じ朝鮮半島にルーツを持っている！ その1つだけで、同じ場所で、同じ時間を共有し、共に考え、共に学ぶことができ、また色々な経験ができた韓青冬期講習会に参加できて良かったと思っています。

韓国語教室

「ムグンファ」

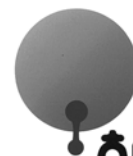


見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵(キム・イヘ)
080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハングルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

活動紹介



在日韓国青年同盟葛飾支部第13期定期大会開催！！



2月20日、葛飾区内において、第13期在日韓国青年同盟葛飾支部定期大会が開催されました。この大会には多くの先輩方や韓青の同志、そして連帯団体のみなさんからあいさつをもらうなど、あたたかい雰囲気の中で進められていきました。

はじめに徐崇・葛飾支部委員長があいさつで、「いま国内情勢は非常に緊張状況が続いているが、私たちは6・15共同宣言の旗のもと運動に邁進し、自主的

平和統一を勝ち取っていくためにも、今日選出される新委員長を中心としてさらに葛飾支部を発展させていってほしい」と述べていきました。

議案審議では活動総括後に、①「6・15共同宣言を支持し、私たちの力で自主的平和統一を実現しよう！」②「新自由主義と戦争策動に反対し、民族の自主権を取り戻そう！」③「統一時代の到来に応え、民族意識を高めた支部の主体力量の強化につとめよう！」—など4項目の活動方針を採択しました。

その後新執行部選出に入り、新委員長に高真理・組織宣伝部長が選出されました。高真理新委員長は就任あいさつで「私たちは正しい未来への道を切り開き、歴史を作る一人として活動を展開して葛飾地域を中心に“民族”の誇らしさを感じることなく過ごしている在日同胞青年、また民族空間に足を踏み出せないでいる在日同胞青年を葛飾支部に集わせ、自主、民主、統一運動の先鋒隊として活動し、伝統ある葛飾支部をさらに発展させていく」と力強く語りました。

また、ここでは葛飾支部の青年2人が決意表明をおこない、一人の青年は支部常任委への決意をするとともに葛飾支部の発展の担い手になると力強く語りました。さらにもう一人は葛飾支部に今まで以上に積極的に参与し、支部を今まで以上に盛り上げていきたいと決意を語っていました。

大会終了後のレセプションでは、参加していただいたみなさまからあたたかい激励の言葉をいただきました。



韓青東京本部OG

徐 順 子

韓青東京本部OG

金 梨 恵

2011年度 春期開講式前特集

みなさんご存知の通り、韓青では10代後半から20代の朝鮮半島にルーツを持つ青年を対象に、ウリマル（韓国語）教室を各地で開催しています。半年1期、毎週水曜日に開催しているウリマル教室は各地域の韓青活動の基礎となっています。今回は2011年春期の開講式が迫って来ていますので、韓青のウリマル教室がどのように運営されているのか、授業の進め方、その魅力などを紹介します。

◎ どこで開催しているの？

東は東京から西は広島まで、韓青全国の支部・本部などで開催しています。地域の同胞青年が集いやすいように同胞密集地、交通の便のいい場所に教室を開いています。また、青年が参加しやすいように多くの企業がNO残業デーにしている毎週水曜日（北大阪教室のみ月曜日）の夜に授業を設定しています。それぞれの教室ごとに、開設しているクラスのレベルは多少異なりますが、地域の在日同胞青年のために全くの初学者対象の入門クラス、基礎を固める初級クラスは必ず設置しています。

東京本部	足立教室／荒川教室／葛飾教室
神奈川県本部	横浜教室
愛知県本部	名古屋教室
三重県本部	四日市教室
京都府本部	南教室／右京教室
大阪府本部	北大阪教室／生野教室
兵庫県本部	尼崎教室／西神戸教室
広島県本部	広島教室

詳しい場所はHPを参照ください

◎ 特色のある授業で活きた会話力が身につく！



言葉 배우という「カリカリやる勉強は嫌だなあ…」と拒否反応をしましてもありますが、大丈夫です！同世代の同胞ばかりなので、堅苦しく勉強するというよりも、仲間たちとワイワイ楽しくしているうちに自然と活きた会話力が身についていきます。そして、会話を中心とした完全オリジナル教材は日本語を母語とする人向けの内容で、最近の言葉までマスターできます。もちろんガッチリ勉強したい人にも対応していますし、ネイティブスピーカーの発音が入ったCD付で耳から覚えることで、より早い上達も可能です。また、在日ならではのチェサ（法事）で使う言葉やあいさつ、韓国の歌から学ぶ実践的恋愛ことばや、絶対使ってはいけないスラングまで（笑）、特色ある授業を行なっています。



◎ 2011年度春期ウリマル開講式が！

さあ、そろそろ韓青のウリマル教室に興味がわいてきましたよね？「言葉は民族の魂」という言葉もありますが、在日同胞としてウリマル、自分の国の言葉を身につけたいと思うのは自然な感情です。それを同じ青年同士で学んでいくというのは、本当に素晴らしい経験であり、私たちのアイデンティティの確立のために必要な過程だと思います。そのような意味では、韓青のウリマル教室は「在日同胞青年にとっての義務教育」といえるかもしれません。4月末から5月中旬にかけて全国の教室で、新規生オリエンテーションを兼ねた「2011年度春期開講式」を開催します。日程などの詳細は決定次第ホームページでお知らせしますが、全国の教室とともに学ぶ仲間を募集していますので、ぜひお近くの教室の門を叩いてみてください。言葉だけではなく、一生付き合える同胞の仲間が待ってますよ。





情勢NEWS

＜すれ違う各国の思惑 南北対話再開と6者協議に向けて＞

去る1月19日、ホワイトハウスで米中首脳会談が開催されました。全世界の注目が集まった首脳会談の共同声明には、朝鮮半島問題において注目すべき内容が含まれています。それは ① 南北関係改善が重要であり、建設的な南北対話が必須、② 6者協議の早期再開に必要な措置をとる、というものです。今やG2とも呼ばれる米中首脳が、南北対話の必要性和6者協議の早急な再開に合意したことで、朝鮮半島情勢をめぐる対話局面は、勢いを増すことになりました。

米中合意に呼応するかのように、北は1月20日、電撃的に韓国に南北高位級軍事会談を提案しました。今まで韓国政府は北から提案された対話を「真正性がない」として拒否していましたが、今回は受け入れを決定し、南北対話が再開する運びとなりました。韓国側としては米中合意を受け、国際的な孤立を懸念したと思われます。

一方アメリカは北の体制崩壊を念頭においた「戦略的忍耐」が、むしろ北の核開発を助長させとの論調が国内で高まったこともあり、対北政策に変化の兆しを見せています。1月26日、アメリカ・スタインバーグ国務副長官が訪韓し、金星煥・外交通商部長官と会談。直後に韓国政府当局者が、天安艦・延坪島事件が6者会談再開の前提条件ではない、との見解を明らかにしました。背景としてはスタインバーグ副長官から圧力があつたことが予想されます。またこの会談でスタインバーグ副長官は、中断していた対北食糧支援の再開を検討していることを明らかにしています。

もちろんアメリカが韓国・日本と連携する対北敵視政策を放棄したわけではないため予断は許しませんが、2月9日には北の科学者代表団がアメリカ・



金長官と握手するスタインバーグ副長官（1.26）。訪韓中、終始

ポケットに手を入れたままの姿は、韓国内でも物議をかもした

アトランタのカーターセンターを訪問するなど、天安艦事件以降、中断していた朝米民間交流も再会し、アメリカの政策変化に注目が集まっています。

しかし2月8日、9日に行われた南北軍事会談の予備会談では、本会談の議題設定と日程調整が難航して決裂してしまいました。この予備会談では韓国側は従来どおり「天安艦沈没と延坪島砲撃に対する責任ある措置」に固執し、本会談日程も南北関係を極度に緊張させる韓米合同軍事演習「キー・リゾルブ」期間（2.28～3.10）中に行うことを提案しました。このように北が到底受け入れられないであろう条件を突きつけ会談を決裂させたことは、韓国国内で野党、社会市民団体、知識人など各界から非難が噴出しています。一部では4月に行われる再・補欠選挙に向けて、南北対立を保守票固めに利用したとの指摘もあります。北からは軍事会談以外にも、南北国会議員会談、赤十字会談も提案されており、対話攻勢に拍車をかけています。

今後も紆余曲折が予想されますが、キー・リゾルブが大きな軍事衝突なく終わったことで、南北対話だけでなく、6者協議再開に向けた対話局面が再開するという見方もあります。李明博政権は軍事力による対北圧迫政策を改め、一日も早く南北対話に誠実に取り組まなければ、国際的な孤立に陥るでしょう。

■ 韓統連が東日本大震災被災者救援 ・

被曝防止対策委員会を立ち上げ。

在日韓国民民主統一連合（韓統連、孫亨根議長）は3月18日、福島第一原発事故を含むじんだな被害をもたらした東日本大地震に対し、「被災者救援・被曝防止対策委員会」（孫委員長、郭元基副委員長、姜春根副委員長、宋世一事務局長）を中央本部内に立ち上げました。

対策委員会は在日同胞被災者への物心両面の支援と原発事故による東日本での被曝防止を目的に、募金運動による支援、被曝防止の広報と対策、情報交換、生活安定面での相互扶助を軸に活動します。

積極的なご支援・ご協力をお願いします。

* 対策委員会：TEL 03-3862-6881 / fax 03-3862-6882

E-MAIL: chuo@korea-htr.com ホームページ: <http://www.korea-htr.com/chuo/>

* 韓青のホームページ <http://www.hanchung.org/> でもリンクしております。

送り先：郵便振替00190-2-297241（民族時報社）まで。
「義援金」と明記してください。

被災された方々に心からお見舞いを申し上げます

編・集・後・記



3月11日に起きた東日本大震災で被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。
また大地震の影響により、発刊が遅れたことに深くお詫びいたします。